

【巻頭言】

年頭にあたって

京都医療科学大学 学友会会長 神澤 良明



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

新しい年を迎え、皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げるとともに学友会にご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

一昨年は母校の開学 85 周年、昨年は学友会設立 85 周年であった。学友会 85 周年記念として学友会バッジを会員に配布する件を総会で承認され、目下準備中です。できる限り早く皆様のお手元にお届けしたいと準備を進めていますので、今しばらくお待ちいただきたい。

母校は島津レントゲン技術講習所に始まり専門学校、専修学校、短期大学と幾多の変遷を重ね 85 年の歴史を重ね、現在、京都医療科学大学として躍進を続けている。この変遷を経ながら学友会は常に卒業生の受け皿として存在したのは学園関係者のご理解と卒業生の母校を想う気持ちであったと思う。

昨年、大阪のある放射線技師養成校で大学開校に伴う閉校式に出席する機会を得た。その閉校と同時に同窓会組織も解散し、組織を新しくするという。組織の会長は涙を浮かべ解散の経緯を説明されたが、その涙は何を物語っていたのかを察すると同じ会を預かる者としてはやりきれない気持ちでいっぱいであった。組織がなくなったからといって同窓生の「心」を変えるわけにはいかない。同窓生の絆は永遠だと思ふ。これは職業を一にした者の心だと思ふ。

このようなことがあって、我が学友会は京都医療科学大学学友会として校名の変遷、組織の変遷を経ても尚、現存している。この喜びを同窓生一同誇りに思つてよい。これも同窓生の太い絆の賜物だと感ずる。

学友会活動の旗振り役を仰せつかつて丸 2 年を過ぎ、前から分かっていたつもりであったが、やっとそれが実感できるようになった。それは「毛利元就の三本の矢の教え」、「アベノミクスの 3 本の矢」ではないが、学友会活動の 3 本の柱である。

まず「1 本目の柱」である。それは同窓生の懇親の場である。これは支部の集まり、クラス会の集まりにその活動を委ねたい。この柱が学友会活動の原動力である。地域の集まりで先輩、後輩の絆が強く結ばれていく。支部での情報交換でよりよい職場に転職した等の話もよく耳にする。このような情報交換も同窓生としての信頼関係、後輩を想う心の表れであろう。

「2 本目の柱」は在校生への活動である。現在、在校生と学友会の接点は「就職懇談会」と学園祭「大瑠璃祭」での相談コーナーである。

就職懇談会は最終学年の学生が就職での悩みを解消してもらいたいと、年齢の近い先輩たちが就職してからの仕事、各々組織の違いによる仕事内容、現在の生活などの先輩として生の声を在校生に伝えている。年齢が近いこともあり活発な質疑応答もあり、先輩と後輩の付き合いの第一歩が始まることとなる。教室での討論の後には野外のあずまやでのバーベキューとビールで益々絆が強くなると確信する。

「3 本目の柱」は大学との絆である。会則にもあるように、京都医療科学大学の発展を後援することが学友会の目的の一つである。これまで学友会は幾多の募金活動を行い、母校の 4 年制大学実現に貢献してきたことは周知の通りである。

大学は建学の精神「品性を陶冶し有為の技術者を養成するを以て目的とす」および基本理念「医療科学に関する高度の知識及び科学技術について教授・研究するとともに、品性を陶冶し、国民の保健医療の向上に寄与できる有為の医療専門職を育成する」を定めている。これらを実現するため学友会も側面からの応援を惜しまない。

先輩に築いていただいた伝統を、会員一人ひとりが大事にし、これからの卒業生のためにも学友会の伝統を更に益々、午(うま)く培って大学のさらなる飛躍を願いたい。

最後に皆さまの益々のご活躍とご健康をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

以上